

つながりの弱いコミュニティネットワークの形成

中庭ゼミ 22111284 長谷川雄大

・はじめに

コミュニティの中心的な人、その周囲の人々の方々にインタビューをし、コミュニティのつながりを調査していき、弱いつながりのリーダーのコミュニティデザインの事例を調査し、どのようにしてコミュニティを形成しているのか、また、課題はどのような点にあるのかを明らかにする

・調査対象地

沼津駅周辺、特に駅南側の仲見世商店街を中心に調査を行った。

・コミュニティと空間、デザイン

コミュニティネットワークの創出をするには二つの側面から行う必要がある。一つ目はコミュニティとしてのソフトの側面である。二つ目はデザインなどのハードの側面である。

・OPEN NUMAZU

「OPEN NUMAZU」とは、URと市役所が、仲見世商店街を中心として、共同で進めている社会実験のことである。運営は入札で決められており、合同会社 REIVER が行っている。社会実験の内容としては、仲見世商店街を中心に地域活性化する点にどのように公共空間を使うべきかを実験している。

「OPEN NUMAZU」の内容としては月一回、行われ、イベントごとにテーマを掲げており、そのテーマに沿ったイベントを行っている。また、日常的には椅子やテーブルなどのファニチャーを置き、気軽に会話たり、休憩などができる場所を作っている。

・For now

「For now」は沼津市から入札が行われ、合同会社 REIVER が企画・運営を行っている。

「For now」は今のところ、とりあえずなどという意味であるが、その言葉の通り、沼津で試験的にお店を出店したり、起業する下準備を行うことができる活動

である。そこで本格的にお店を起こしたい人は空き店舗を紹介してもらうことができる。

基本的に一つの空間で行っており、相互につながりができやすい環境になっている。

ここで知り合った人は今でもつながっており、コーヒーを焙煎して、そのつながっている人の店舗で販売をしていたりする。

・合同会社 REIVER

「合同会社 REIVER」は先の二つの活動を行っている会社であり、デザインと企画・運営の両方面から行っている。

この会社の所属している古地由利香氏は、マネージャーとして活動しており、企画、運営を行っている。活動を行う中で古地氏は「自分は黒子に徹する」という風に述べていた。活動は街のプレイヤーたちに行ってもらい、古地氏は「きっかけづくり」を行うのみである。自分がいなくなった時に地域が回らなくなってしまうためである。

・総括

まちづくりを行う上で、中心となる人がいなくなっても、地域が循環していくようなコミュニティづくりを行うために、自分から中心になることはしないことが重要である。中心はとなる人が行うべきなのは、きっかけづくりである。きっかけを与えればプレイヤーは主体的に動いてくれる。またコミュニティを創出するためには空間のデザインを行うことが重要である。またまちづくりをするうえで形式である行政とのつながりは薄いほうが良い。

参考文献

- ・中庭光彦 (2017/6), 水曜社, 「コミュニティ 3. 0 地域バージョンアップの論理」
- ・沼津市, (2020/3), 中心市街地街づくり戦略概要版
- ・Mark S. Granovetter, "The Strength of Weak Ties", (May, 1973)